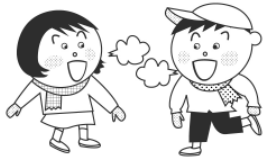


# 大砂土東小学校 学校応援団だより



発行 大砂土東小学校学校応援団事務局

## 児童の安全な登校を支える地域パワー

大砂土東小学校 校長 高後 仁

私は週に1~2回、児童の登校時間帯に学区内を巡回しています。ブルーの防犯メッシュキャップとパトロールベストを身につけ、同じくブルーの自転車に乗りますので、職員の間からは時折「青レンジャー出動!」との声も聞こえてきます。

さて、地域では、次に述べるように、児童の安全な登校を願って活動をしてくださっている多くの皆様にお会いすることができます。

- 本校の東門の前とその北約50メートルの路上では、計3名の交通指導員の皆様が制服・制帽姿に指揮棒を携え、主に堀崎町、東大宮7丁目および大和田町1丁目東方面から来る登校班の道路横断をスムーズに誘導してくださっています。
- 東大宮1丁目および大和田町2丁目西では、スクールゾーンへの自動車の進入を防ぐための馬出しや、交差点での旗振りをしてくださっている皆様があります。
- 大和田町2丁目東および中では、3名の交通安全ボランティアの皆様が、それぞれご自宅または自営店舗のそばの交差点や横断歩道において、大和田町1, 2丁目の登校班の道路横断をフォローしてくださっています。
- 「子どもひなん所110番の家」のプレートを掲げてくださっているお宅の中には、児童の登校時間に合わせるように玄関前の落ち葉掃きや、植木への水やりを行ってくださる皆様がおられます。また、登校班に温かな目を注ぎながら愛犬の散歩をしてくださる皆様もおります。

学校に戻ると、お揃いのグリーンのキャップとベストを着用された防犯ボランティアの皆様が目にとまります。校門に立って「おはようございます」と児童にお声掛けをしてくださったり、数人で歩きながら校内の見回りや児童の見守りを行ったりしてくださっています。

私は、「登校時の児童の安全確保」という視点から学校を応援してくださる地域の皆様のおかげで、全児童が一日のスタートを円滑にきれることを嬉しく思うとともに、地域の皆様のこのような活動の積み重ねが、全体として大きなパワーとなって学校が支えられていることを、改めて強く実感いたしております。



東門の前で児童の誘導にあたる交通指導員



道路を横断する児童を見守る交通安全ボランティア

## 【創立80周年記念企画】

### 小学生にタイムスリップ ～ 榎本房雄さん（80年前⇒第1回入学生、今⇒学校評議員）

本校は、昭和7年4月に大砂土東尋常高等小学校という校名で現在の地に開校してから、今年で80周年を迎えました。

現在本校には、「学校が保護者や地域住民等の信頼に応え、家庭や地域と一体になって子どもの健やかな成長を図り、地域に開かれた学校づくりを一層推進していく」ために、さいたま市教委から委嘱された8名の学校評議員の皆様がおられます。8名の皆様の存在は、学校の応援団、更には顧問団とも言えるものです。その中のお一人、大砂土東地区社会福祉協議会の会長でもある榎本房雄さんは開校時の1年生、つまり第1回入学式の新入生でした。榎本さんに日ごろの学校への応援を感謝しながら、当時の学校の様子等についておたずねしました。

——開校時の1年生は何人ぐらいでしたか？

「男女あわせて45～46名でした」

——1年生のとき、主にどのような服装で学校に行っていましたか？

「着物は木綿のかすりやで、履物は下駄またはズック製の靴でした」

——1年生のときの担任の先生は、どのような服装でしたか？

「担任は女の先生で、白いブラウスに、紺の上着・スカートでした。大砂土東地区は、当時はまだ田舎でしたので、先生の都会風の服装が新鮮に見えました」

——当時は、どのような教科（授業）がありましたか？

「修身、読方、算術、理科、図画、地理、体操でした。女子には裁縫もありました」

——休み時間に級友たちとどのような遊びをしていましたか？

「一番多かったのは、お喋りでした。廊下でメンコもしましたが、先生に見つかりと叱られるのでこっそりやっていました」

——小学校生活の中で、一番うれしかったことを教えてください。

「1年生の終業日に全甲の通信簿をいただき、帰る途中、駐在所のおばさんに通信簿を見せたら大変ほめられて50銭銀貨を貰いました。このときのうれしかった記憶が今でも思い出せます」

——1年生のときの遠足の行き先はどこでしたか？

「確か大宮公園だったと思います。」

——当時の小学校には、遠足のほかにどのような学校行事がありましたか？

「運動会と学芸会がありました。また、天長節（昭和の日）と明治節（文化の日）は登校し、校長先生による教育勅語の朗読と講話の後、紅白のお餅をいただいて下校しました。」

——小学生のころ、教室にはどのような暖房器具がありましたか？

「3尺四方の火鉢があり、木炭を燃して暖をとっていました。火鉢には大きなやかんが掛けてあって、お湯が沸いていましたね。」

——小学校時代にどのような役員や係りを経験しましたか？

「特に役員とか係りというものはありませんでしたが、私は級長を続けさせられていました。」

——登校途中または下校途中のことで、特に思い出に残っていることはありますか？

「当時、冬は雪が30cmも積もることがあって、登下校には難渋しました。また、学校周辺はうっそうとした林でしたので、放課後先生の手伝いを頼まれて暗い道を一人で帰る際、恐い思いをしたこともありましたね」

——最後に、学校評議員として、これからの大砂土東小にどのようなことを期待されますか？

「適切に学校運営がなされていますが、今後不登校やいじめ等への対応も考え、保護者や地域との連携を保ちながら家庭における教育の必要性なども話し合うようにしていけばと思います」

（取材・編集 学校応援団事務局）

## ボランティアに定年は無し ～「防犯ボランティア連絡会議」を開催

学校地域連携コーディネーター 長沼 幸男

10月7日（金）に、さいたま市防犯ボランティア・リーダー2名をお迎えして「平成23年度防犯ボランティア連絡会議」を開催しました。当連絡会議は、学校防犯活動を推進するにあたり、必要な連絡調整および研修を行うことを目的とするもので、平成17年度から毎年開いています。

出席者は、本校の防犯ボランティア・交通指導員（以上 学校応援団）およびPTA保護委員の計30名でした。冒頭の防犯ボランティア・リーダーは、警察官OB・校長OB・防犯推進委員など防犯に関する専門的知識を有する方々の中から市が委嘱するもので、各小学校の校長や安全指導担当職員等と連携して学校安全に係るネットワークづくり等の援助をしています。

今回の連絡会議では、まず防犯ボランティア・リーダーより「さいたま市における学校防犯活動の現状と課題」について講話をいただきました。次の2点が特に印象に残りました。

- 大砂土東小は地域の力の結集が強いという印象を受けている。学校防犯活動も充実の度を深め、他校の模範的な例と言える。
- 市全体を見渡した課題として、防犯ボランティアの組織づくりが未だ途中段階の学校が少なからずあること、防犯ボランティアの高齢化が進んでいること——などがあげられる。

次に、上述の講話と出席者の皆様の日ごろの実践を踏まえながら、情報交換および協議を行いました。その中で、門扉のすぐ外側が一般道になっている東門の安全対策や、幹の内部に空洞が見られる立木への懸念が示されたほか、次のような意見が述べられました。

- 見回りや見守りが人数的に手薄になる時間があるので、地域の知り合いに「ボランティアに定年は無いので、一緒にやりませんか」と声をかけていきたいと思う。
- 子どもたちは交通指導員の誘導や指示によく従ってくれる。しばしば元気なく登校する子を見かけるので、声かけも大事な活動の一つだと思っている。
- パトロールベスト姿の我々とすれ違っても、黙ったままの保護者がおられるのは少々残念。子どもたちに手本を示す意味でも、互いにあいさつ程度の声はかけ合いたいもの。

終了後、出席者の皆様から、「犬の散歩や区役所への用足しなどのときでも、できる限り通学路を通るようにして、大人たちの目のリレーで子どもを見守っていきたくないと改めて感じた」「子どもたちが巻き込まれるような事件が起きると解決に大きなエネルギーが必要となるので、日ごろのこまめな防犯活動を今後も大事にしていきたい」などの感想をいただきました。



講話をする市の防犯ボランティア・リーダー



熱心に協議をする出席者の皆様

## ◆現在活動されている団体のご紹介◆

### ●大砂土東地区自治会連合会（代表 武藤 勇 様）

本連合会は、加盟自治会が19、会員数は約13,200名を擁します。

#### 【事業活動】

- 1 独自の事業としては、①5月12日を大砂土東地区「防犯の日」と定め、各自治会・商店会および青少年育成大砂土東地区会の参加のもとに地区内一斉防犯パトロールを実施 ②防災・防犯をはじめとする地域の諸問題や区政運営等をテーマに年1回、区政対話集会を開催 ③各自治会役員の見聞と親睦を深める目的で研修会を実施——などがあります。
- 2 見沼区防災連絡協議会の諸活動や区・市の防災訓練等への参加をとおして、防災活動を推進しています。
- 3 見沼区防犯連絡協議会の諸活動や7月10日の見沼区「防犯の日」キャンペーン活動への参加および学校防犯ボランティア活動の支援をとおして、防犯活動を推進しています。
- 4 見沼区ふれあいフェア実行委員会の構成員として、実施母体を支援しています。
- 5 社会福祉協議会や地域包括支援会議の諸活動への参加および各種募金活動への取り組み等をとおして、福祉活動を推進しています。
- 6 その他として、スポーツ関係団体・青少年育成大砂土東地区会・公民館等の諸活動への協力・支援や、区・市行政に関する連絡活動等を行っています。

#### 【今後の活動目標】

- 1 各自治会の会員増対策や自主防災・防犯組織の設立を支援していきたい。
- 2 高齢者・子ども・障がい者が楽しく安心して暮らせる地域の構築を目指したい。

### ●ソーイングボランティア（代表 高野 征恵 様）

平成21年11月に発足した“ソーイングボランティア”ですが、今年度も27名のメンバーで楽しく活動しています。今年度の主な活動についてご紹介いたします。

#### 【松の子まつりバザー用手作り品の製作】

PTA会員の皆様からご提供いただいた布地やボタン等の材料で、給食のコップ入れ・給食着入れ・上履入れを製作しました。「この布で何を作ろうか？」とみんなで考えるのは、とても楽しいことです。バザーでは大変好評で、残った品物はわずかでした。来年度も続けて製作する予定です。ご自宅に残っている材料がございましたら、ご提供をよろしくお願いします。

#### 【給食配膳台カバーの製作】

夏休みに各自自宅に布地を持ち帰って製作し、2学期の始業に合わせて全33クラス分を学校にお渡ししました。配膳台の大きさが各クラスさまざま、それぞれのサイズに合わせて布地を裁つのにやや時間を要しました。学校に来校された際は、是非ご覧になってください。

#### 【5、6年生家庭科授業のお手伝い】

このお手伝いは担任の先生の補助を務めるものですが、子どもたちと直接触れ合い、楽しい時間を過ごせるので、ソーイングボランティアの中心的活動に位置づけています。今年度は、2学期にミシンの授業のお手伝いをしました。5年生は初めてのミシンにドキドキ・ワクワクで、私たちボランティアは気を引き締めて、適切な操作が行われているか見守りました。6年生は先生の説明を理解して各自製作を進めていけるので、つまずいたところだけ教える程度でした。子どもの困っていた顔が笑顔になる瞬間は、ボランティアをやっていて良かったなと感じます。

～問い合わせ先～

【学校応援団事務局】

大砂土東小学校 048-684-8003  
学校地域連携コーディネーター 長沼 幸男